

393

特 246

614

法
學
博
士
三
枝
茂
智
氏
講
演

内政と外政との關係
時局認識の鍵鑰

霞
山
會
館



* 0003523000 *

0003523-000

特 246-614

内政と外政との關係

三枝茂智・〔述〕

霞山會館

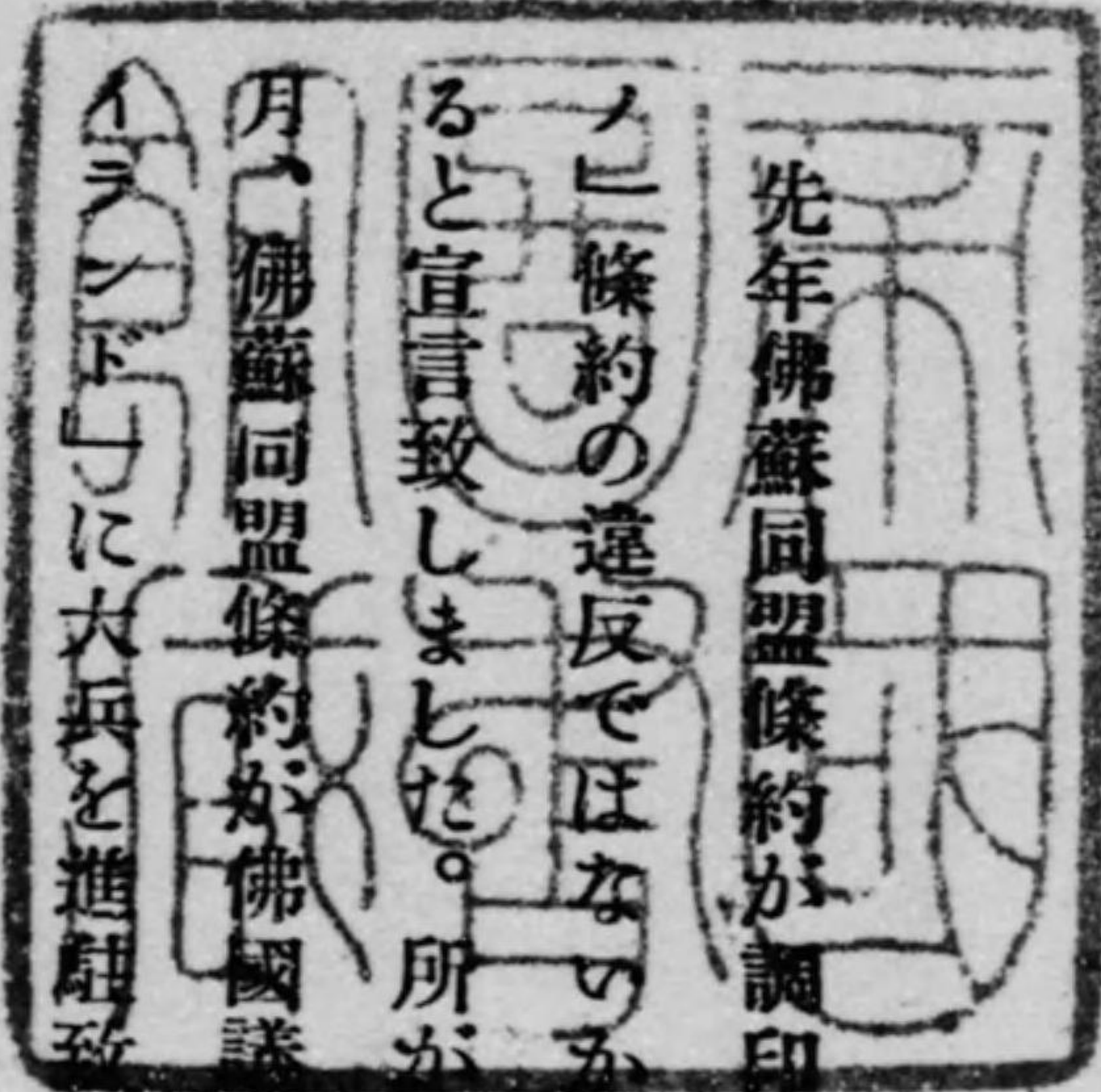
昭和 11

ABA

特 246
614

内政と外政との関係 時局認識の鍵

法學博士 三枝茂智



先年佛蘇同盟條約が調印せられました際、獨逸の指導者「ヒットラー」は此の同盟條約は「ロカルノ」條約の違反ではなから、併し他の締盟國が「ロカルノ」條約を守る限り獨逸も之を守るものであると宣言致しました。所が此の宣言は其の表よりも裏に意味があつたのでありまして、最近本年の三月、佛蘇同盟條約が佛國議會に於て批准せらるるや否や、獨逸は敢然「ロカルノ」條約を破棄し「ラッペン」に大兵を進駐せさせた次第でありました。凡そ孰れの國でも責任の地位に在る當局は、必ずや國家百年の大計を想ふものでもありませうが、同時に又當面の議會、又は内閣の壽命をも考へて聲明や答辯するのでありますから、我々は日常の出來事を注視すると同時に右聲明や答辯を宇宙特に人間界の理法や、民族的歴史の必然性やに照して判讀して行かなければなりません。

私は十年以來、一つの研究題目を持つて居たのであります。夫は「内政と外政との交渉又は關係」



と云ふ問題であります。嘗て永井柳太郎氏が其の講演中に於て外政は内政の延長なり、と云はれたのを私は記憶致して居ります。外交史上、内政の行詰りを外政に求むると云ふ例は尠くありません。

「ナポレオン」三世が「メキシコ」遠征を企てたのは外交上の成功に依り彼の獨裁政治の不評を轉換せむとした一例であります。蘇聯の指導者達は對外戦争の行詰りを國內革命に誘導して行くこと云ふ戰略を考へて居たのであります。「ムツソリニ」の「エチオピア」遠征も類似の見地から觀察するところが出来、多分「ヒットラー」も「ナチス」の政策に於て行詰りを生ずれば生ずる程今迄の對外硬を續け、舊獨領植民地其の他の失地に對する回復熱を高めて行くことと想はれます。

明治維新前、尊王攘夷と開國佐幕とが對立し、大體尊王開國に歸一したことは御承知の通りであります。之等は皆内政と外政との機微なる交流交錯を明徴にするものであつて、私には畢竟内政も外政も民族國家の生活運営と云ふ一個の單一現象の兩面に過ぎぬものと觀察されるのであります。所が今迄私は此の重要問題に就て世界中に一冊も纏りたる著述を發見出来ませんでした。多分根氣よく搜したならば五頁、十頁の小論文位はありませうが、其の程度のものなら私共にも書ける準備があるのであります。斯様な次第で全體として系統的には把握されて居らない「内政と外政との關係」と云ふ重要問題に付、歐洲列強や本邦やの内外の情勢と云ふものと顧念しながら、一應不完全ながらも解説を試みて見たいと存じます。此の際、群集心理學や、生物學や、經濟學や、軍事學の知識を借りて來る

ことが是非必要になるのであります。



動物は植物に依存し、植物は太陽に依存し、肉食動物は他種の動物、並に植物に依存するのが生物界の理法である。人間と雖も尼僧や平和主義者迄含めて此の理法の勢力圏内に在るものの如くであります。生物の存続成長は悉く生活資料の吸收合併に據るのであつて、「ファシスト」伊太利民族活力の內的に氾濫した伊太利の「エチオピア」併合の如きは其の著例であります。再軍備に依り今や謂はば、箸や「フォーク」やの準備が出来た「ヒットラー」が、之を何處に突立てるかは實に今日の興味ある問題であります。偕て人間の一群が吸收合併することを原則として一應許されて居る範圍の限界を示すものが即ち國境でありまして、往々自由主義者や國際主義者の忘れ勝ちな國境は實に重大なる意味を持つものであります。米國人が其の國境を閉鎖して狐狸を棲息させ、百年後の子孫に未開發の富源を保留しようと努めますことは、一面絶對の正義觀からすれば如何かと思はれますが、他面至極自然な成行とも考へられます。其の反動として日本の大陸發展、即ち滿洲事變が起つたので、此の事變の原著者は米國人であると云ふ見方も強ち荒唐無稽を以て目することは出来ませむ。

偕て猛獸特に肉食獸は獨棲する傾向が強く、群居せないのであります。草食動物即ち社會的生活を爲す動物は之に反して多數群居するのを常と致します。斯様な群團を爲す動物の示す第一の特色は

鋭き生物武器や瘴猛性やの無い代りに、仲間より来る暗示に對する暗示感性が著しく強いのであります。第二に斯様な群團は本質的に指導者を要求し、例へば秋の空を翔る雁の先頭に立つものは常に翼力の最強者なのであります。人間社會であれば、即ち英雄が待望され、而て環境が不安であればある程即ち非常時が深刻であればある程強き指導者が要望されます。弱體內閣と云ふが如き言葉を嘗て聞きましたのは即ち待望された強き指導者が現はれて居らず、當該群團の期待が裏切られて居ると云ふ失望を表徴するものであります。獨逸の「ナチス」が大統領とか總理大臣とか云ふ様な官僚的な稱呼を棄てて嚮導者 (Führer) と云ふ文字を使用して居る深い意味も之で御了解が行きましようと思ひます。偕て本論に戻り第三に群團を爲す動物は孤立を恐れて之を脱するが爲には死をも恐れないと云ふ性質を持つて居ります。此の性質を學者は群團本能と申して居ります。例へば、我々が夜會に出席して、全體の者が黒の「モーニング」で居ります時に、自分一人縞の仕事着で居りましたならば、非常な不安を感じるのであります。之は群團本能の要求が充されて居らない爲めなのであります。昔希臘に行はれた「オストラシズム」、我國の流刑、俊寛僧正の嘗めた苦杯と云ふものは群團本能に加へられた攻苦であるのであります。特別に注意せなければならぬことは此の群團本能が攻撃防禦と云ふ際に當つて獨り著しく亢奮することであります。皇軍が死闘敵陣に突貫するに當りまして、「天皇陛下萬歲」或は又「日本帝國萬歲」と云ふ様な皇國組織の根本事實を國民精神の顯現である最高の字

句を絶叫致しますのは、群團本能の最高調に達した證據でありまして、斯の如き心理状態に於てのみ我々は祖先より傳へられた殉國の美風を發揮出来るのであります。孰れの國を問はず非常時や戦時に反軍思想を抱懐する者は勿論徴兵忌避者が極刑、私刑に遭ふのも亦此の群團本能から来る反動であります。此の事實は數日前貴族院に於て議員の辭職問題を起した經緯に徴しても明瞭に看取されるのであります。第四に群團は常に監視者又は見張番と云ふものを持つて居りますが、更に蟻の社會になりますと同種間相戦ふ所謂戦争なる現象が現はれ、従つて此の社會は職業的軍人を持つて居ります。つまり職能に従つて専門が分れ、分業が行はれて居るのであります。此種の武蟻は食物も給仕人、否給仕蟻が手傳はなければ喰べないと云ふ風でありますので、所謂軍國主義——此の文字は反軍主義者や「マルクス」主義者が好んで使用するのですが——は人間に限られず或る程度迄社會的動物に本質的な現象であるとも觀察せらるるのであります。第五に最後に群團は共同生存意思を有するものと云はれて居ります。つまり個體の屬する種の存續を保障する爲に自分丈けよければよいと云ふて濟まざらず、仲間が自分の周圍に澤山居ることを愉快とする性質を持つて居るのであります。共存共榮は時と處に依り強弱の差こそあれ、一群團に屬する各個體の本然の要求であるのであります。

人間は實に斯の如き社會的動物の最高等なるものでありまして、人類の歴史や吾々の經驗の示す限り血族關係を中心とする家族と民族國家とが人間に本質的な團結である様に思はれます。特に政治上

重要な民族國家と云ふものは人種、言語、宗教、風俗、習慣、傳統、皇室、地理、經濟運營の單一又は共通性を特色とするものでありますが、勿論先刻述べました社會的動物に共通な五種の性質を高度に持つて居るのであります。而て特に人間には銳利なる角も牙も無い代はりに頗る發達せる言語があるのであります。之は人間の暗示感性が優れて銳敏であることを立證するものであります。交通發達せる今日に於きましては、外國語なども多く寧ろ不必要に多く混入しますが、之に對し國語の統一整理が行はれ國定教科書の採用を見、國語の國防と云ふ様な現象を見ますのは、人間仲間の間に於ての推感會通を適確且容易ならしめむが爲めの必要に基くのであります。此の要求から國體明徵問題までの距離は僅に紙一重の差であります。私は大學時代新歸朝者上杉教授の憲法講義を聞き美濃部博士の講義との差異を大體了解して居たのでありましたが、外遊中自己意識の高まつた我國に國體明徵問題の起るを聞き之を民族的、文化的、吐瀉作用と名附けたのであります。餘談は暫く措き群團本能は人間に於て特に強烈でありまして、吾々が忠君愛國の國家的示威運動に臨んで全く特殊にして名狀し難き武者振を感じますのは、實に群團本能の亢奮を語るものであります。滿洲事變が起る以前の十餘年間は大體政黨及び政黨内閣が日本民族の嚮導者となつて居り、内政の指導精神は即ち自由主義であつて、外政の指導精神は即ち巴里平和會議、華盛頓會議、倫敦會議に臨める協調外交所謂追隨外交であつたのであります。滿洲事變を一轉機として嚮導者權は尠くも一部は軍部にも歸した様に觀察せら

れ内政上は國家主義が高調され、外政上は自主積極外交が強調せらるるに至りました。あの際我國の各界の者が競ふて軍部特に青年將校達に接近して其の考を聞かむと欲する強い傾向を認め得たのは、之又孤立せざらむと欲する群團本能の興起を明示するものであります。滿洲事變後國際關係緊張し、軍擴行はれ潜在的戰爭顯著となり、人之を呼んで非常時と申すことになりましたが、非常時と云ふことは心理學的に云へば群團本能の興奮を意味するものでありまして、「マルキスト」等の反軍思想も迅速に是正されて行き、曩日の露骨なる反軍思想の表白の爲に立場の困難を感じた學者もあつたものの如くであります。此の頃「言論の不自由」の聲を聞くこと屢々であります。夫は勿論年六十回とか七十回とか云ふ記事差留命令に關係するでありましょう。併しながら夫以外にも彼の「御時世だから」と云ふ割切れない言葉が示す通り眞に非常時に生きたる關係上、内心の群團本能から來る禁止命令——勿論本邦の知識階級に抱かれた自由主義や「マルクス」主義やに對する——に依り今迄の様な勝手な發言が抑壓されて居ることを示すものかとも存じます。近時は恐らく所謂「スバイ」戰が行はれ、本邦に於ても間牒の取締に關する法律が採擇されむとして居る次第は御承知の如くであります。が、「スバイ」戰が特に暗號電報を廻つて行はるること「ブラック・チェムバー」記述の如くであるのは實に暗號電報が一國の神經中樞の各部を連ぬる暗示手段であります關係上然るのであります。在東京露國大使館員たる邦人に付問題が起つて來たのであります。實に之等の人々は故意過失がない場合でも

既に相當苦しい立場に置かるることを覺悟してかかるべきであります。

共同生存意思も亦人類の場合に於ては強烈であるのでありまして、種の存続の必要から來て居るのであります。從て各個體は社會的「ダーウイン」主義の指摘する如く生存競争に従事して居りながらも、同情救済が同時に併行すること熊谷敦盛の軍記に見る通りでありまして、共同生存意思の最後の客觀的保障は犯罪人に對する制度であります。現代國家の刑罰は復讐よりも豫防矯正に重點を置き外國人たる乞食や犯罪人は之を放逐致しましても同國人であれば懲治しながらも、國家の負擔に於て之を養つて行くのであります。此の連帶關係は社會層の各方面に於て民族國家の各員に宿命的なものであります。水草を追ふ遊牧民には生活資料は或は共有でありませう。大化の新政で土地國有を改めて布告し班田制度が行はれましたことは決して偶然とは申上げられませむ。之と同様の環境に置かれた上で「スカンヂナヴィア」の栗鼠は附近の草木を喰竭せば死力を出して大舉全體移民を執行致します。古代より戰爭の原因は生活資料——希臘波斯的の戰爭に於ける無花果——又は性的財産の爭奪に關係する場合が多いのでありまして、唯物史觀は名譽、信仰、復讐等の爲にする戰爭を否認さへするのであります。從つて活力のある民族の生活現象は必ず二つの方面に其の生活運營を示すのでありまして其の第一は其の群團の内部で全部の者が兎に角生きて行かれる様に譲り合ひ、有無相通じ、其の才能に應じて自己を實現し、其の自己を轉じて全體に回向して奉仕するといふことでもあります。其の

第二は内部に於て如何に有無相通しても全體に行渡らせない、又強ひて行渡らせる爲に一切人が營養不良に陥ると云ふことであれば、其の際は致し方なく本來生活資料を自由に採取してよい區域たる國境を打破つて外に氾濫し、一層廣大なる基礎の上に群團の生活運營を再建して行くと云ふ作用であります。「マルクス」主義は全部清算され得るし、又清算せねばなりません。併し群團本能、民族共同生存意思を具備した民族國家特に我が國の如き家族國家に於きましては、萬人が所を得る様に、一切人が譲り合ひ、有無相通じて、生活が安定する様に國家が攝理して行き、綜合力を高めて行くと同時に、海外發展大陸政策を遂行して、我々が生活資料を吸収合併し得る地盤を廣めて行く事は民族生得の理法でありまして、我々は此の理法からは逃避出來ないのであります。宇宙の理法に基礎を置いた法制の保護下に於て然らざる場合には到底實現し得ない富貴を克ち得た自由主義者達が犠牲の方は全國家の然知らん顔で濟ませるものでありませうか。私には尠くも疑問になるのであります。共產主義は清算し得ても群團本能、共同生存意思は清算出來ません。茲に赤と右と紙一重だと叫ばれた事實の根本原因があるのでありまして此の兩者を截然と區別し得る標準も實に茲に存するものであります。茲に又眞正の合理的社會主義の基礎が発見され、獨逸語を用ひて申しますれば、國家社會主義は統一鞏固ある民族國家に必然的でありまして、私は此の立場から同胞の指導原理として日本中道全體國家主義を提唱致すのであります。

群團本能は團結を擴大させるものでありますが、然らば、國際聯盟の理想たる世界聯合とか世界國家とか云ふものが人間に妥當するかと云ふに、群團本能には矛盾性がありまして、民族を超えて他の群團に擴張歸一することを拒否するのであります。民族國家は我々の經驗上最大の群團で、超國家は我々の空想であります。各個人の擴張的利己主義の極限は民族國家であります。其處から各個人の昂揚、慨世の志、政治家氣質と犠牲と云ふ事が生れて參るのであります。



偕て人類社會に秘密結社と公開結社とを區別することが出來ます。秘密結社は「フリーメイソン」其の他五、六の場合に見るが如く、其の團員たることが、團員に丈けしか知れてをりません。團員である云ふ形式的の制約は絶對的價值を持つのであります。團員たるの本分に反けば苛酷なる私刑が來るのであります。從て集團的生活の内容と云ふものは重要でなくなり、「フリーメイソン」に關する限り眞理、博愛、道德把住、協力と云ふが如き他愛もない事項を除き、秘密的目的の如き部外者には到底窺知し得ません。或は秘密結社の階級的組織が嚴格である關係上、團員でも末輩には前述の秘密的目的は到底知れないことでありましよう。之に反し、公開社會に於ては即ち國家等に於ては團員たることを示す國籍と云ふものが重要ではありましようが、之が絶對的價值を有するに至りませむ。同時に集團生活の内容と云ふものが等しく重要性を帯びて來るのであります。即ち縣人會とか、文化

協會とか、同職組合とか、其の團員の間に發言權の大小利益享受の厚薄等に依て親粗の段階が生ずる傾向を認め得るのであります。斯様にして公開社會たる集團の内部に兎角に求心力と遠心力との交流作用が起つて來るのを避け得ないであります。先般衆議院に於ける齋藤隆夫氏の演説中に生存競争の落伍者、政界の失意者、一知半解の學者と云ふが如き文字がありました。之等は一様に遠心力の温床と看做さねばなりません。皇國組織の根本精神に同胞中一人でも其の所を得ない者あれば、之は陛下の赤子として我が政府の關心事でなければならむ。我國が一君萬民の家族國家でなければならむと云ふのは此の遠心力を抑えて求心力のみを發動させて行く必要を説いて居るのであります。群團本能は強くありましても、攻撃防禦の必要が之を興奮に導くことなく、久敷自由主義のみの高調さ來つた社會に於ては何時とはなしに社會の綱紀が弛緩して社會が解體に瀕するに至ります。之が實に文明強國の頹廢に入る時でありまして、嘗て「ラチフンデア」か羅馬と其の屬領とを壊滅に導き、今「シーグフリード」が英國の危機を叫ぶのは根本に於て斯の如き事態に接近したからではあるまいかと考へるのであります。されば前述の群團本能の明滅と求心力遠心力の交流作用に依り各種の國內的及國際的現象を惹起致すのであります。内政と外政との興味ある交錯も此の間に潜在するのであります。



倍て危険信號を受けた千匹の羊は一匹の如く行動するのでありますが、警戒を解いて草を喰ふ羊群は千匹は千匹の如く行動致すものであります。所で今日は技術的進歩の結果文化的交通が頻繁でありまして一國の學者、醫者、農學者、國際法學者等は他國の夫と、一國の藝術家は他國の夫と、宗教家や平和主義者やは他國の夫と提携し、茲に各種の職能的國際主義が現はれて參ります。中でも吾々は外國貿易に従事する者資本家特に金融業者の國際主義が顯著に現はれてまゐるのを認めます。此の最後の國際主義に重きを置き過ぎた結果、若し英獨戦ひて伯林を陥落するも其處で掠奪すべきものとしては英國資本あるのみだと云ふ様な考へ方から「ノルマン・エンゼル」は大戦前戦争不可能論を唱へた次第であつた。兎に角平時に於て民族國家の團員が他國家の團員と交渉することは深く且多岐に亘るのが常であります。茲に一人の有閑夫人を想像して彼女が外交團へでも出入して居ると假定致しますれば、彼女は九州の炭礦夫や北海道の工場労働者にと何の係はりもないと考へる様になるのが必然でありましょう。併し之にも反動が起り反省を促す機會は來るのであります。亂暴な次第ではありまするか例へば帝國「ホテル」の舞踏會に右傾團が劍舞をしつつ躍込んだと云ふ様なことも、人間に多少其の素質のあるところから起るのであります。日本財閥金融業者の圓流出に對して現はれた反動なども亦其の一例でありませう。夫は兎も角平時自團體と他團體との交渉は必然に起るものであります。外交機關や國民外交の叫や輸出入業者の要求や謂はば感觸肢を外に伸ばす國內要素の希望は之

を助長せなければ止まないのであります。

斯様な次第でありますから強力な外國の時代精神や社會思想は容易に我國に浸潤して參ります。左様な思想の内に先づ自由主義を擧げることが出來ます。之には種々の意味もありませうが、第一には佛蘭西革命に現はれた自由、平等、博愛の精神を擧げ得ますので、夫は國際的に反映して人間宣言となり、十九世紀の前半社會主義擡頭の直前に各國に於て自由主義運動の高潮するのを見たのであります。斯様な運動が次第に地歩を得て保守專制主義が倒れて行きましたのは夫が人類一般に妥當する方面もあり、今日でも極く一部丈けは妥當する爲めでありませうが、同時に斯の如き運動の背後に自身民族國家をなさず、併も選民意識を以て世界に君臨せむとする猶太人の秘密結社「フリー・メイソン」(「フラン・マンソン」又は「フライ・マウエライ」)の魔手の動いてゐるのを全く看過するわけには參りません。實に佛蘭西革命の首領株は殆んど全部「フラン・マンソン」であつたのであります。佛國の此の傳統は今日に及んで同國に禍して居ります。佛蘭西が露國と同盟する所以も「ヒットラー」が佛國を無きものの如くに奮進する所以も共に茲にあるのではありますまいか。「スタヴイスキー」疑獄事件から昨年二月の市街戦となり、其の結果舉國一致の「ズーメルグ」内閣が生れましたが、一片の革新すら爲さずして葬られました。佛國人を引緊めることは殆んど不可能であります。

第二に自由主義は正統派經濟學の始祖「アダムスミス」に源を發し、「マンチエスター」學派とし

て結成された外國貿易に於ける自由主義、從て又國內經濟政策としても個人の發案に任せての絶對放任主義を意味します。此の主義と云ふものは一面より見れば何の道個人の集合から成立つて居る社會に於て其の各個人の自由競争場裡に於ける有效なる發明努力を利用し得る點に於て棄て難き長所を有します。第十九世紀中「ヴィクトリア」王朝治下に於て廣袤千三百萬方哩、人口四億を擯取して、而も資本主義（余は「マルクス」の階級闘争説を受容しないのであるから此の文字を唯集積された資本の持つ特殊の傾向の意に用ふるのである）が矛盾撞着を示さずして、殷富雙び無く、單純なる庶民も比較にならぬ程高き生活水準を享樂し得た國と時代には自由主義が全く妥當したに相違ない。爾餘の諸國と雖も英國と事情を同一にする程度に於て此の主義を受容して差支なく、日露戦争後の我國が此の主義に弟子入りしたことに敢て不思議はないのであるが、唯爲政者も國民も勝つて胃の緒を緊むるを忘れ、政黨政治の高潮に伴ひ、無反省に過度に此の主義の論理の末梢迄を追及して行かなかつたかどうか研究問題として我々に殘されるのである。此の意味の自由主義が既に一度言及した猶太人の立場に妥當することも申す迄もありません。

第三に思想上の自由主義が「プロテスタント」と靈犀相通じ、個人主義から無宗教主義、通俗主義に墮し、果ては個人の自由を尊重するの餘り、政府は有るか無いか解らない位がよいとするの餘り、超ゆべからざる國家社會の綱紀を乗越へて、平和論から、軍縮論ならまだよいか、一轉して軍民離間

の反軍思想、徴兵忌避思想に發展し、此の點では獨逸のナチスが指摘する如く國家を解體させる思想的病菌として社會主義と餘り選ぶ所なき迄に至つて居つたのであります。私の記憶する限り、若い學士などには、不戰條約に絡んで「In the names of their respective people」との一句が議會で同題となつた時に、其の理由意義を殆んど解し得なかつたのであります。「ユダヤ」人や英米人やの一見普遍的な原理に魅了されて思想的被擯取者となり、自己意識日本の特異性を忘れて居つた故然るのであります。「デルヒ」なる「アポロ」の神殿に刻まれた希臘哲學の最高綜合原理は「汝自身を[○]知れ」と云ふのであります。認識の主體が確立せず何に認識され得ますか、自分の何者たるかを、日本の何たるかを知る事は認識の少くとも五十「パーセント」であります。「ムツソリーニ」「ヒットラー」が歐洲を、否自國を混亂より救ひ出さうとしてゐる其の無限大の思想的混亂は自己を忘れて猶太人式に考へる當然の歸結であります。希臘哲學の第二綜合原理は「何事も過すな」[○]「Rien de trop」でありました。確かに或る期向我が同胞は自己を忘れ、過度に自由主義に走つて居りました。反動は全く約束せられたのであります。



私は佛蘭西革命は法律上の平等、政治上の自由を追及し、社會主義一般は經濟的自由を追及するものとして後者を前者の延長と考へる習慣であります。されば佛蘭西革命の背後に在つて其の立役者

達を操縦した猶太人が又「マルキシズム」の擡頭に重要な役目を勤めたとしても何等の不思議はありませむ。千八百三十年代に於て猶太人と「フリー・メイソン」とは自由主義資本主義の高潮に依り世界の富が著しく増加すると共に、三百萬人の猶太人と其の黄金とが或る見地よりすれば、世界を支配して居ると認識し、同時に之に對し無産階級の革命的逆襲戦の潮の崩しつつあるのを見て早くも之に備ふる必要に氣付き、茲に獨逸系猶太人「カルルマルクス」の登場を見たのであります。「マルクス」主義は資本集中説、階級闘争説、唯物史觀を經緯とし、民族國家の本質的存在と其の對立關係とを否認し、勞働階級—資本家階級に對する—の國際主義を特色とするものであります。勿論大天才の捏造にかかる机上の論理大系でありまして全部が全部虚構でない迄も、大部分眞理を以て許すことは出来ませむ。併しながら兎に角彼は此處で人類に永久の問題である貧困問題を取上げ彼の想定した無産階級の戰闘的革命理論を編上げたのでありまして、其の貧困者に對する獨特の魅力に民族國家に及ぼす絶大の危険性が宿るのであります。而して斯かる主義の普及が一部は國際的、無國籍、無産、知識階級である猶太人に有利なる環境を提供するものであることは、各國社會民主黨共產黨特に蘇聯の實情等に徴して明瞭であるのであります。生産とは環境を自己に有利に變化する事でありまして、自由主義や共產主義が猶太人にとり生産であり得ても日本人には消費にしかありませんぞ。

歐洲に於て「ユダヤ」禍の問題を研究して居る學者、特に加特力教徒などは世界の思想的動向の九割五分迄は、自己の環境を有利化せむとする猶太人に操られて然るのであると論斷極言するのであります。私共は此の判斷を其の儘受容するには相當躊躇するのでありますけれども、歐洲諸國は多少の差こそあれ孰れも三百五十萬を算する猶太人問題の惱みを持ち、猶太人に有利な環境が用意されて行くに伴うて歐洲社會の綱紀は弛廢し、人々は全く思想的混亂、道義的無政府状態に陥つて仕舞ふたのであります。各民族が自己意識を失うて結局猶太人の陥穽である思想的支配の世界へ迷入つたのでありますから、之は極めて當然の結果と申さねばなりません。斯て世界は一樣に混沌「ユダヤ」禍の潮に押流されたのでありまして、之に對し群團本能と共同生存意思とに制約された民族社會から反動が起り来るのは必然であります。其の反動は反自由主義、反「サンヂカリズム」を必要とした伊太利にては「ファシズム」となり、反「ユダヤ」主義、社會民主黨、共產黨の排撃を必要とした獨逸に於ては國家社會主義となりましたが、孰れも根本に於ては即ち國家主義でありまして、此の反動は一般に之を看取する事が出来ましたが、環境の至難にして活力ある國民程此の反動も強かつたのであります。私共は蘇聯の一國社會主義すら此の反動の例に漏れて居らぬと觀察して居るのであります。

偕て前述の反動は極度に無氣力なる自由主義の政府を持ち、「サンヂカリズム」に荒されて同盟罷工に日も足らなかつた伊太利に於て最初に最も強く現はれました。人間の本性に宿る宇宙の理法の動くところ社會主義者の陣營より出でたる「ムツソリニ」に依り市街戦に墮した階級闘争は内亂は民族

即ち全體に依り超剋されました。「ファシズム」と云ふ名稱からして既に群團本能、共同生存意思に根を卸す人類に本質的な民族國家主義の高潮に相應しいのであります。「ムツソリニ」の組合國家に於て労働者と資本家とは生産者として平等の立場に立ち、不勞所得者は貶せられました。今や雄邦伊太利の歐洲政局に對する發言權は急に増大し、佛國をして意義ある讓歩をなさしめたる後、國內財政經濟の逼迫する所、爆發か膨脹かと揚言して、「ムツソリニ」は斷乎「エチオピア」征服の師を起し、死線を突破して今日は之を併合するに垂んとして居るのであります。

大戰の失敗に依り十月革命を経て獨逸共和國は失意のどん底に突落され、國民は極度に自暴自棄となり、共產黨の脅威は常に頭上に懸垂して居たのであります。「ナチス」の主張する所に依れば十月革命後獨逸を支配したる者は勞兵ではなくて、社會民主黨及共產黨を操る獨逸系「フリー・メイソン」即ち「ブネ・ベリト」會であり、猶太人は實に要路者の八割を占めて居たのであります。此の「ユダヤ」禍の支配が十三年續きたる後、排「ユダヤ」主義而して全體主義——公益は私益に優先すを口號とする——は國家社會主義の旗幟鮮明な「ヒットラー」の「ナチス」として登場したのであります。夫はやがて民族に本質的な群團本能と共同生存意思との歸結であるのであります。

露西亞に於ては世界大戰の末期に於て共產革命が成就致しました。夫は政治的、社會的機構と社會的生産力の矛盾と云はむよりも、「ツァール」を取巻いた支配階級の腐敗無能力と外戦の行詰りを巧

に内戦に利用した、過激派作戦の成功とに歸すべきであります。人々は共產露西亞が獨裁主義と國家資本主義とに恵まれて二回の五ヶ年計畫で産業革命を成就し、雄大なる軍國主義國として甦生し來ることを殆んど夢想せなかつたのであります。之は實に「ユダヤ」思想禍の昏迷中に座して覺らず、民族國家の活力の源泉と其處に宿る理法とを把握せざりしの過に歸せねばなりません。「マルクス」は彼の所謂無産階級の革命後國家が如何なる役割を演ずべきかを明確に想定して居らず、「バクレーニン」や「クロボトキン」は將來の理想共產社會が徹底平等なるべきの見地より、無政府共產主義即ち國家否認に傾いたのであります。事實上「プロレタリアート」の獨裁國家は中央集權的國家資本主義國として發現致したのであります。民族主義の優位性は一國社會主義、又は國家資本主義、軍國主義、中央集權主義、結句全體主義を約束するものであります。此の理を悟る者にとりては露國の雄邦としての國際政治舞臺への登場は當然の成行であります。其の際「スターリン」等が「マルキシズム」に背馳する様な諸政策への轉換を外政上の必要に藉口して正當化して居ることも注意すべき點であります。



翻て我國に於きましても一般の風潮に漂はされて自由主義が羽翼を伸べ中途より政黨政治の華かなりし時代に於て生産者の一半である資本家の經濟至上主義、將又資本家的國際主義が優位を占め、平

和主義が高潮に達し、海外、大陸に發展するのを阻止されて覺らず、巴里平和會議、華府會議、倫敦會議に於て、我が政府は米國の極東政策支那の不可侵門戸開放に追隨し、軍縮運動に協力を惜まなかつたのでありまして、「マルクス主義」の高潮、帝國主義及軍國主義排撃思想にも影響されて、反軍思想の露骨に表白されたことさへ目撃されたのであります。斯る風潮でありましたから我國の知識階級一般と云ふものは往々無自覺な安價な自由主義でなければ「マルクス」主義に安住して居りまして、私共の經驗した限りに於ては學生は殆ど擧げて桃色化し、教授の内之に迎合する輩さへ現はれたのであります。されば支配階級、否な左様な閉鎖されたものはあるべきでありませんから、爲政者と申しませうか、此の爲政者の殆んど全部が皇國の本壘を開け放し抛棄して顧みなかつた様に私の目には映るのであります。何を皇國の本壘と云ふか。最も強烈なる群團本能と共同生存意思に培はれ、長い歴史の傳統に純化されて國民の最高道德意識に迄高められて來た一君萬民の國體精神であります。此の道義的日本國粹主義は「マルクス」主義とは絶対に相容れないばかりでなく、自由主義とは極く一部兩立し得ても凡そ最も縁遠いものなのであります。一時我國の戰鬪的「マルキスト」は六萬と籌せられ之に同情する位の事は所謂「インテリ」に必要な一資格位に考へられて居たのであります。桃色化した知識階級の下に於て、「リーブクネヒト」の排軍國主義に鑑み、平和思想、軍縮運動が反軍思想に迄發展し、國軍は必要なる惡であると言切る學者をさへ生じたのであります。かくて大戰後に

先づ五個師團に相當する人馬と次に四個師團とを廢止し、軍容刷新費五億六千萬圓は十年間に唯三割丈の支出を見た始末であります。斯ては軍人の全部は世の落伍者に追込まれます。若し我國が英・米・佛の如き飽和國であつたなら軍國主義を否定して差支なく、或は社會解體作用の進行する所、反動を惹起せなかつたかも知れませんが、我國及其の環境は私の信念に従へば實に之とは全く正反對の立場に在つたのであります。既に世界一般に瀾漫しかけて居た經濟的軍擴を含む國家主義全體主義の反動は我國に於て頗る強烈ならざるを得なかつたのであります。滿洲事變が此の轉機になつて居ることにも内外政治の交流上大なる歴史的必然性を認め得るのであります。

斯様にして、先づ第一に平和主義國際主義に基礎を置いた協調外交將又所謂追隨他主義外交が清算されねばならなくなりました。元來私は國際聯盟を其の法理及び實際の兩方面より研究する機會を持つたのでありましたが、我國の滿洲に於ける既得權と聯盟規約第十條以下の規定との矛盾に喫驚を禁じ得なかつたのであります。想ふに我國の滿洲に於ける既得權は實に滑り臺の中腹に置かれた毬であつたのでありまして、動き出す事に決つて居り、引上げなければ滑り落つるに決つて居たのであります。而て華盛頓會議の本問題取扱方と云ふものは例の九國條約等に依り之が引上を禁止したのでありますから、最早落下することに運命づけられて居たのであります。而て之に最初の衝擊を與へたのは中國國民黨の革命外交不平等條約撤廢運動を滿洲にも瀾漫せしめた張學良輩であつたのであります。

此の時大和民族に課せられた問題は殆んど之を意識する者がなかつたのでありますが、要するに我國は經濟力物質力に於ては或は英・米の十分ノ一、二十分ノ一に過ぎずして辛ふじて八大工業國の末席を穢す次第であるから、我國を五大國或は三大國に引上げて居る不權衡に過大な軍國主義精神力主義を切棄てて、當然滿洲は之を拋棄し、情勢の赴く所朝鮮臺灣をも拋棄して世界歴史の舞臺より引退した瑞典、土耳其、西班牙等の列に伍するか、夫れとも亦青天白日旗を掲げた張家の政權に反撃を加へて規約第十條及び九國條約の桎梏を打破して、滿洲國に於ける權益を確保擴充し、滿洲國を誕生せしめ東亞安定力主義を標榜して世界に於て第二位と降らざる三大雄邦の一つに躍進するの大犠牲を甘受するか、二者其の一つであつたのであります。而て既に國內經濟生活の逼迫、知識階級の失業、一般生活水準の低下、滿洲が我が國民經濟に織込まれてゐること等の國內情勢と相待つて、期せずして内政外政を通ずる最高國策の決定に際し帝國の選擇は積極主義の勝利に歸したのであります。軍國主義の助長、廣義國防缺陷匡救綜合國力向上の要求は其の結果でありました。精神力至上主義と經濟至上主義、國家主義と自由主義、三大雄邦の一つたらしむとする雄邦主義と敗戦主義、十割主義と六割主義、東亞安定力主義と米國極東平和機構奉戴主義、英雄主義と頹廢主義、自主積極外交と他主追隨外交、皇道主義と白人優越主義、現状打破主義と現状維持主義の間に立つて、我國は果然最終的に此の前者の方選んだのであります。聯盟の平和機構も米國の極東平和機構も粉碎され、苟安の平和主義、國際主義

は影を潜めざるを得なかつたのであります。

次に自由主義に對する反動は久敷以前より世界的でありました。既に獨逸の Friedrich List, das nationale System der politischen Oekonomie は經濟上の自由主義が個人主義、原子主義、從て四海同胞主義に墮し先進飽和國には妥當しても、一般には決して妥當するものでないことを喝破して居るのであります。余輩は日本のそれこそ一知半解の知識階級一般がよく此の本を熟讀せむことを希望致します。が此自由主義夫自身に於ても「ヒルグリーン」は自由主義を再檢討して個人人格の完成を重しとし自由主義の内經濟理論の方面丈けは之を修正し、政府の干渉を認め、一部分に社會主義に接近し、行詰つた英國自由黨を更生せしめたのであります。之等は要するに皆群團本能共同生存意思の目に見えざる支配性を語るものであります。夫に拘はらず我國の今迄の爲政者達は知識階級一般と共に自由主義に陶醉し、平和思想、國際主義より出發して反軍思想に到着し、經濟至上主義に合致する様軍國主義を剪除せむと敢てし、全く皇國の本壘を置去りにしたかの觀がなさにしもあらずであります。而て他面取殘されたる軍部特に其の一隊は中央政府一般と絶縁状態に於て單獨に滿洲に關する國策を恢興し、精神力至上主義、雄邦主義、十割主義に合致する様軍擴に乘出すと同時に、缺陷ある廣義國防、即ち産業國として我國の腕力に比例せない程低位にある經濟に關心を持ち、其の見地から壯丁を出す、農漁山村及び中小商工業者の救済を叫び、統制經濟をすら主張するに至つたかに觀察せられま

す。前述の逼迫せる國際状態は又國內的に反映して國家主義の勃興を不可避的ならしめました、諸々の國士的先覺者達は前述の爲政者達が一部大學教授達が無意識に拋棄した皇國の本壘に代つて占據したのであつて、其の先覺者達は軍部全體特に青年將校又は之に近接せる人々であつたと見るのは僻目でありませうか。

第三に國軍編成の基礎は誰が何と云ふとも全體主義であります。「マルキシズム」の分裂主義は國軍の基礎を根本的に動搖せしむるものであります。蘇聯邦が今日彼の大軍國主義を築き上げたのは「マルクス」主義が行はれて居らず、實は蘇聯邦と雖も民族國家の本質に制約されて然るのであると私は觀察するものであります。大正の初年頃より「マルクス」の研究が自由放膽的となり、實行運動に移る者をも生じ入營者にも稀に赤の分子が現はれ、軍部が之を研究し始めたのも無理は有りませむ。軍人と雖も日本人たる基礎の上に軍人となつてゐるのであつて、自分や周圍の生活問題等にも國政一般にも關心するであらうし、廣義國防の領域に於て廣汎な政務を共同領域として持つことになるであらませう。唯軍人の政治不關與の御聖昌を奉じて軍部の要求は寺内陸相の述べたる如く國務大臣を通じて閣内に反映せしむべきでありませう。正しく思惟した將校達は一君萬民の家族國家の精神に導かれて邪説をだん／＼克服して行つたでありませう。併し其の過程に於て群團本能と共同生存意思には勿論制約されますから、獨逸の用語を用ふれば國家社會主義、我國の用語を以てすれば日本國家主義か

ら到底逃避することは出來ず、從て彼等は此の主義を把握して彼の今迄の爲政者たる自由主義者達が拋棄した皇國右翼の本壘に確かに據つたのであります。此の把握が正しいかも知れないことは今迄の國內情勢の経過が之を證明して居ると思ひますが、今後一層其の事が明徴になるであります。兎に角「マルクス」主義と日本國家主義、即ち赤と右との差は絶對であります。前者は民族否定、階級闘争、所有を否定しながらも掠奪後の共有又は分配を敢てせむとする貪慾なる貧困克服策であります。後者は之に反し、群團本能共同生存意思に導かれ、綜合國力向上の要求に應ずる全體家族國家主義、奉仕主義であります。此の區別は心眼の明なるものには誠に明瞭でありますが、軍部に示唆を與へた雑多な志士達の内には此の區別の出來ない者もあり、稀には殆んど片足又は兩足「マルキシズム」の中に突込んで居た者もあつたのでありませう。實に此の時であります行政官司法官の内に赤と右と紙一重だとの嘆聲を漏す者があつたのは、而て現に此の赤と右との區別を克明にし得る指導者も或は缺如して居たかも知れませむ。而て或は赤の分子の内にかの「ユダヤ」禍の例に見るが如く右翼を思想混亂に陥れて之を利用して、例へば「クーデター」を行はしめて、之を赤の革命に誘導しようとする者が或はないではなかつたかも知れませむ。「ヒットラー」は赤が思想混亂の方法により右翼を傀儡として使ふ戦法に出づる傾向なきや否やを調査報告する様外交機關に命令したと云ふ事であります。若し皇國に於ても、多少右申す如き傾向があつたとすれば、自由主義者に依りて棄てられた皇國の本

臺が同時に一少部分でも赤の分子に依りても占據せられはしなかつたか疑問になつて來るのであります。多分茲に最近の思想混亂や、痛恨事たる不祥事件の一部の原因があるものと私は觀察するのであります。依て赤と右と紙一枚だと云ふて放任して置かないことが、赤と右とを截然區別することが皇國の全愛國者の重責であるのであります。

最近の議會に於ける齋藤隆夫氏の有名な演説は一面、實に檢事の論告として正しくもあり、又最上の出來榮であつたでありませう。併し此の議論は其の基調を自由主義に置いてをりますから、内政と外政と共に逼迫して交流作用を起して居る今日に於ては、他面足りて居ない點があります。其の事は他の兩三名の議員からも指摘せられて居る通りでありまして、此の議論の雰圍氣から殆んど反軍思想とも云ひ得べき言説を爲す議員が續いて現はれて來たと見るは僻目でありませうか。私は小乘的肅軍即ち嚴罰と軍人の政治不關與元より必要でありませうが、眞正の拔本塞源的大乘的肅軍は同胞が皇國の使命に生きむとする我國の内外の時局を洞觀して萬人が「國防を國防する」精神になつた時に全國が一刀一心流の劍聖の立會の姿勢を取つた時に始めてよく達成せらるると信ずるものであります。私は後に述ぶる如く雄邦日本を目指して飛騰せむとする我國の非常時は眞に空前絶後であつて、之から先多年に亘り多大の犠牲を要求するものであると存じます。若し夫が軍人に向つて生還を期せざるの覺悟を要求するものであるならば、軍人は一般同胞に向つて奢侈的消費に向けらるる金錢は勿論萬止む

を得ざれば有益生活費の一部すら之を割いて國家に回向せよと要求する權利がないでありませうか。時局認識の鍵鑰は正に茲に在るのであります。

今迄內的苦闘を續けて來た大和民族は自由主義、社會主義の上に超剋して漸く心眼を開いて前途を眺むる様になりました。其處に認識されるものは廣田内閣の聲明にも明なる如く外政上東亞安定主義、即ち私の所謂皇道宣布の雄邦主義であります。之に應じて内政上は肅軍、道義國家、軍擴、高橋財政の修正、之を要するに庶政一新であります。昂揚せる新日本の巨艦は纜を解いて出港したのであります。非常時の洶湧する波濤を蹶つて驀進する艦は方向轉換を許さない様であります。内部の一切の機關は全速に適合する様に廻轉せねばなりません。腐蝕せる心棒やゼンマイや壊れ落つる外致方はありませむ。外政と内政の交錯は誠に機微な關係にあることが之で首肯せられるでありませう。



私は滿洲事變前の我國の地位を滑り臺の中腹に置かれた毬に比したのであります。今日の日本は之で靜止して居るでありませうか。自由主義者は云ふに及ばず兎角靜的のものを見様とする現状維持論者は非常時は存在せない、日本は安定して居ると見たるのであります。私は之に大なる疑問を抱くものであります。

なぜならば第一に廣田「ハル」交換公文の内には我國の滿洲、北支、北樺太に於ける鑛山利權、西

伯利亞沿海の漁業權等をも掩する大陸發展策と米國の不承認主義との間の矛盾、十割主義と六割主義との對立から來る海軍軍縮秩序の解消及び軍擴競争は織込まれて居るとは一寸思はれないからであります。經濟的要素や心理的要素やの作用で、日米戦争は決して孤立して生起はせないと私は見るものでありますが、そうであればある程、此の際安易な氣休めを云つて、國民の群團本能を引緊めず置くことが高等の「ステーツマンシップ」であるかどうか、私は聊か疑ふのであります。英國すらも支那援助の法衣に抗日の甲冑を包み兼ねて居るのであります。

次に滿洲國は之を防守せずしてよいでありませうか。第三「インターナショナル」の普遍的革命戦は「レニン」の世界革命は東方に於て決すとの言葉にもある通り東洋に於ては民族主義戦争の形式を採るのでありますが、其の達成手段として蘇聯は更生せる軍國主義と思想戦術とを有して居ります。本來思想戦術に於ける彼等の狡智は猶太人の傳統を繼いで變化の限りを竭し、我が「インテリ」の一部などは彼等の指頭に嘗て踊らされ、今日でも群團本能に弛みを生ずる様な隙さへあれば、踊りたいと待ち設けて居るのであります。昨秋第三「インターナショナル」は自由主義、社會民主主義、第二「インターナショナル」、國際聯盟と和して、銳意「ナチス」、「ファッショ」其の他國粹主義の牙城にのみ迫らんと決心致して居るのであります。其の際滿洲國境に尙多數の匪賊等を算しますのは何と云つても深憂であります。加之蘇聯の第一次第二項五ヶ年計畫を経て更生した軍國主義は總兵力百

六十萬、飛行機四千臺、戰車四千臺を有し。其の内今日極東に於て二十五萬の兵力と「ゲベツ」數萬とを維持し、超重爆機百臺、其の他の飛行機八百臺、戰車八百臺、以上を保有し。蘇滿國境の三地帯即ち後加爾地帶、中部黑龍江地帶、沿海州地帯に「トチカ」陣地を築き。浦斯德に潜水艦一説に三十隻、一説に五十隻を浮べ。外蒙の守り即ち西伯利亞の守りと考へ、外蒙と同盟條約を結び、七萬と籌せらるる蒙古兵を指導強化して之を自家藥籠中に收め、之を攻勢據點として北支に殺到せんとし。更に新疆より陝西に亘る紅軍と連繫して居ります。獨逸等の専門家は彼我の武装に於て先方が優るものあるを認めて居ると聞いて居ります。而て不幸にして斯る情勢は永遠の眞理である支那政府の歐米依存主義、遠交近攻主義を煽る虞れがないでもなく、支那側「スポークスマン」の語る所に依れば支那紅軍と中央政府とは抗日の統一戦線に一致し、中央政權は北支地方の南端一線に兵備を配置し、中支南支の海岸一帯、中央奥地、其の背後地に三段の戦線を擴げ、「トチカ」陣地を設け、國際戦争近きにありと待ち設けてゐることでもあります。然らば我が政府當局が此の情勢に關して重大關心を有すると聲明して居るのは偶然でありません。如何なる視角よりするも滿洲事變後の日本は未だ静止せりと評し得ないのであります。

左様な次第で滿洲國は防守されねばなりません。露國側の兵備強化に伴ひて我國の兵備強化も行はれて居りますのは必然の結果であります。我が北支駐屯軍も同時に幾分強化されました。蓋し外蒙に

於ける露國の地位の強化と夫との合作により紅軍の北支殺到が支那軍の待機姿勢と相俟つて實に一大脅威を構成するものなるが故であります。斯様な事態は忘れてならぬ豫防戦争の勝れるにあらざるやを思はしむるものであります。最早左様な時期は一應夙に通り過ぎたのであります。然らば私共は戸水「バイカル」と云ふて空想家の如く扱はれた一學者が、實は最も覺醒せる人でなかつたかどうかを夙に過去に於て再検討すべきであつたであらませう。自由主義は經濟至上主義となり、延いて敗戦主義に墮するものでありますから、とても肇國の理想に胚胎する天命を覺ることは出来ません。桂、小村公侯以降、多少でも我國の宿命や歴史的動向やを把握して之に寄與したと目すべき輝く大政治家を擧示し得ないのは遺憾の事であります。若し世の中に長期死闘戦を豫防戦争となし孤立戦を狩獵戦となす政治家あらば彼こそ其の指導する國民の感謝を値ひするでありませうが、自由主義や議會政治が斯の様な俊傑をして事を爲さしむるに適するかどうかは餘程研究の餘地もあることであらませう。政治の要道は豫見して準備し、又は解決することでありませう。本邦が滿洲事變直前の姿勢で安易な敗戦主義の道を歩んだならば其の落行く先は知れて居ります。天命を覺つた今日の危険な道を進んで、若し莫須有の蹉躓に遭ふても、我々は我々の歴史を刻印する計りでなく、我々の志を國民的理想を生かすことなり「ケマルバシヤ」の如き者の蹶起を促すこととなり、其の結果は決してより悪くはありますまい。斯るが故に當局は自由主義者の議員から外交工作を強化し、國防に關する政策を轉換せよ

との要望を受けまして、目下の場合夫が不可能であり、武裝的平和こそ今日平和を贖ふ唯一の方途である云ふ風に答へて居るのであります。此の武裝的平和、特に夫が軍擴競争を伴ふ場合に私は之を潜在的戦争と呼ぶのであります。此の意味に於ては遺憾ながら日露戦争は來て居るとも云ひ得るのであります。願くは夫にも拘はらず日蘇國境劃定委員會や紛争調停委員會が其の效を奏して我が在滿軍備に數倍する過大なる露軍の撤退を克ち得て此の壞亂を未到に拂拭して貰ひたいものであります。夫が東洋平和安定力たる我國として試むべき第一の工作でありませう。併し、此の工作の爲めにも軍備の補強は不可缺であります。其の際南進論はあり得ても夫は大きな聯合戦線に打當る惧もありまして南進は精々經濟的であり得るに過ぎないのであらませう。

繰返して申しますならば東亞安定力政策と云ふ退引ならぬ我が抱負に支障をなす事態は二つあるのであります。夫は支那論策家の所謂西方の侵入 (intusion of the west) があり、三國干渉後利權獲得競争時代に入りて、支那が邊疆鬭争地域の形相を著しくし、今日でも支那側の歐米依存主義は之を清算し去ることが出来ず、華府會議の支那觀が擬制に過ぎなかつたと云ふ事でありませう。次に日本海は名のみであつて露領の武裝特に潜水艦空軍根據地が我方の脅威となる點でありまして、之等は何れも第一義の政治的軍事的問題でありまして、其の望まじき解決に伴ふ成功の經濟的意義は左迄大きくは估價され得ないのでありますから、露國國力の見損じや孤立下の持久戦などは避くべきでありませう。

又一部の突貫論者即ち「ダイハード」は皇軍はなんでも正々堂々と進むべきだと申されるそうでありますが、我皇軍は古來智術を尊重し、戦の始めにも中頃にも終りにも之を併用することになつてゐると考へます。尙外交と國防の一元化と云ふことを公理の様に世間では申しますが、私は國の存立を期する所以の方途を國策と云ふて、國防や外交は右の方途を助成する手段であると考へるのであります。故に體である所の國策は二つあつてはなりません、其の用である外交と國防とは虚々實々時に矛盾する様相を呈しながらも國運の達成に競合すべきものと考へます。此の意味に於て國防と外交とは二元で宜敷く、何の道百尺竿頭一步を進めて露國の不可侵條約の提議などは受容して置いた方が安全感を確保するに適したと今も考へて居るのであります。

斯様に慢性化した超非常時、武裝的平和即ち潜在的戦争の雰圍氣中に在りては先づ群團本能が生起し軍擴が肯定され、擴大され、世界に於て第二位と下らざる雄邦に相應はしき大陸海軍、即ち十割主義が容認されねばなりません。然るに勿論國力資源特に産業經濟力に於て英・米の或は十分ノ一、或は二十分ノ一にしかず、辛ふじて八大産業國の末席を穢して居る我國は前記の十割主義との矛盾に苦しまざるを得ません。此の矛盾が目下六億八千萬圓の赤字公債となり。近く三億五千萬圓以下の増税及び八億乃至十億位の赤字公債として表現されんとして居ります。大衆課税を避けて右様の増收を圖り低金利政策を行ふて公債消化力を増し、財政を聊か非常時態勢となすと同時に米穀自治管理法蠶繭

處理法、肥料統制法案で農漁山村を更生させ、退職金積立法案で聊か労働者の地位を安固にし、中小商工業者の爲に金融保證會社を設立することが要求せらるるのは皆な共同生存意思の要求する所なのであります。經濟は重要なも經濟至上主義をとれば世界第八位の國として満足し東亞の一小邦とならなければなりません。夫が許されんから何人も夫を肯定せないから雄邦主義を採用した。經濟單位の過小なることより來る矛盾逼迫は覺悟の前と云はねばなりません。富有階級に屬する者も必しも尠くはありますまいが、我國の大衆は最低生活水準の一線を出没して居ります。此の状態に於て有無相通せしめんとする各般の補助政策統制手段は錯綜混亂時々矛盾をさへ曝露するであります。之は外部への氾濫を要求する内部の生命躍進の證據であります。豚の様な太とい腹を持たないからとて鋭き爪牙を廢してはなりません。猛獸は實に飢へ細りたる腹を持つて居るのであります。恐らく帝國が世界特に東亞に行使せんとする發言權ほど大きいものはありません。各人の生活水準の最低限度に近く行詰つての生命破壊の記事が我國ほど豊富な國はありますまい。此の驚くべき矛盾から、我が政治家は一つの精神力學を編出すことを要求せられて居るのであります。

肇國の理想に燃えて皇道を世界に宣布せんとし、尠くも東亞安定力に相應しき雄邦たらんとする日本は西班牙や瑞典等歴史の舞臺を退いた諸國の列へ下り行く途を拒否致しました。此の若き血に燃ゆる雄邦日本は漸く十八歳に達したのであります。併し私の目に映ずる彼は八寸齒の下駄を穿き、つま

先に立つて最後の高さ一階段を跳越へんとして居るのでありますが、唯今の體勢は其の仕事に到底適應致しません。雄邦日本としての自己確立の爲には彼は遠くより走り來つて跳躍の絶對緊張の寸分隙のない體勢を取らなければなりません。卑見に依れば之が今日要求せらるる庶政一新綜合國力最大限發揮の根本理由であります。而て「ヴィクトリア」女王朝下の英國なればいざ知らず、今日我國の萬人に妥當し何人も逃避することの出來ない指導原理は前述の理由に依り日本中道全體國家主義―汝自身を知れ、何事も度を過すなどの綜合原理を織込んだ―でありまして各人は先づ第一着歩として其の奢侈的消費を持つて全體に朝宗することを、國家に回向することを要求せられて居るのであります。

(昭和十一年五月二十二日於霞山會館)

昭和十一年六月十四日印刷納本 (非賣品)
 昭和十一年六月十六日發行

編輯兼 東京市麴町區三年町一番地 武
 發行人 牧田
 印刷人 東京市麻布區筈町二十八番地 宏
 印刷所 梅谷政
 東京市麻布區筈町二十八番地
 發行所 梅谷印刷所
 東京市麴町區三年町一番地
 霞山會館
 電話銀座 〇五四八番
 二六五六番

THE
LIBRARY
OF THE
MUSEUM OF
COMPARATIVE ZOOLOGY
AND ANATOMY
HARVARD UNIVERSITY
CAMBRIDGE, MASS.

4
4